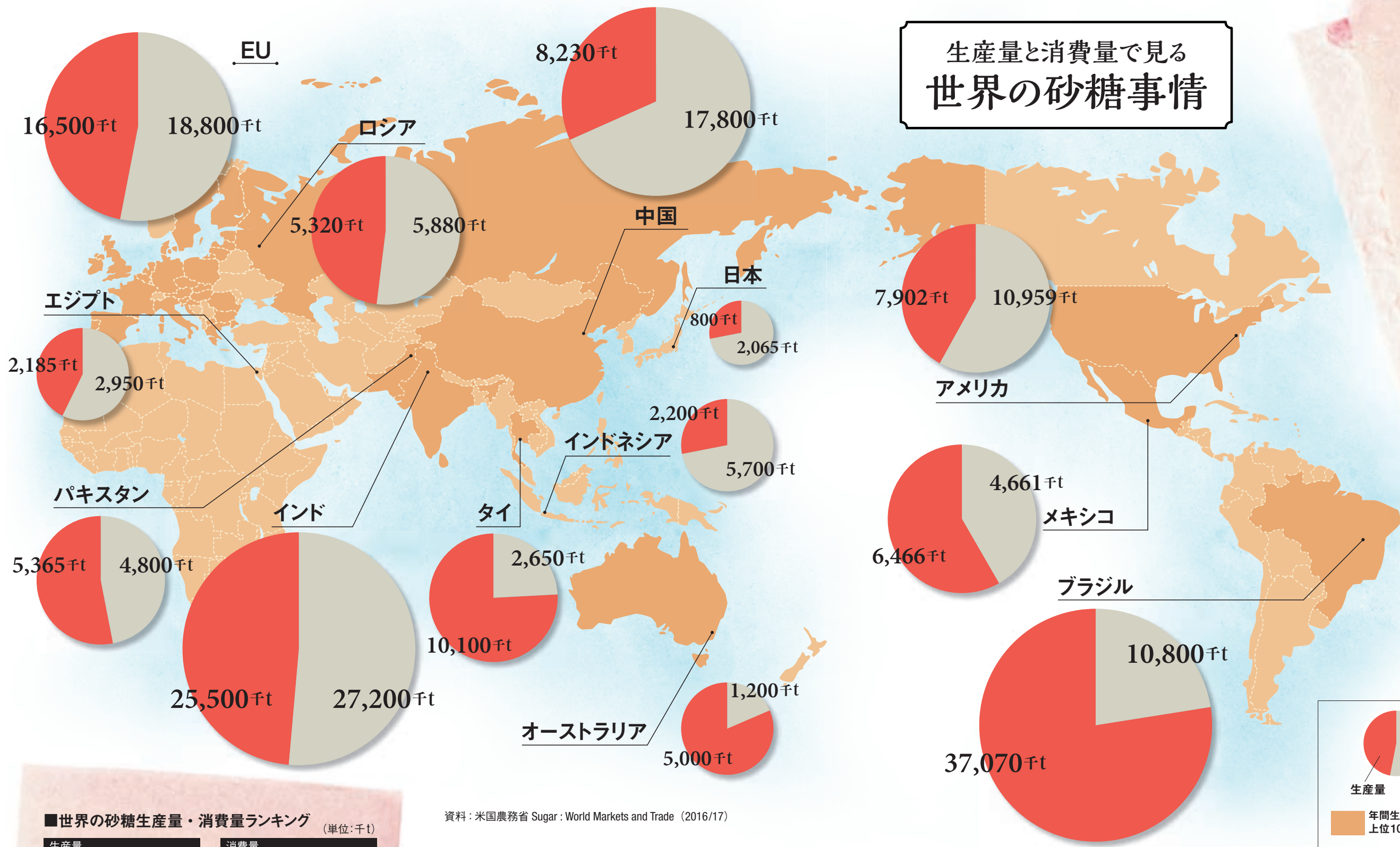


砂糖

身近な調味料でありながら、その歴史や製造過程があまり知られていない砂糖。今回は、そんな砂糖にスポットを当てました。

取材・文／千葉貴子（P4～5、P10～11）
下境敏弘（P6～9）、三浦良江（P12～13）

生産量と消費量で見る世界の砂糖事情



■世界の砂糖生産量・消費量ランキング (単位:千t)

生産量			消費量		
1位	ブラジル	37,070	1位	インド	27,200
2位	インド	25,500	2位	EU	18,800
3位	EU	16,500	3位	中国	17,800
4位	タイ	10,100	4位	アメリカ	10,959
5位	中国	8,230	5位	ブラジル	10,800
6位	アメリカ	7,902	6位	ロシア	5,880
7位	メキシコ	6,466	7位	インドネシア	5,700
8位	パキスタン	5,365	8位	パキスタン	4,800
9位	ロシア	5,320	9位	メキシコ	4,661
10位	オーストラリア	5,000	10位	エジプト	2,950
...	...	...	...	...	...
24位	日本	800	16位	日本	2,065

資料：米国農務省 Sugar : World Markets and Trade (2016/17)

資料：米国農務省 Sugar : World Markets and Trade (2016/17)

北と南の地域を支える日本の砂糖生産

日本は、各国と比べると、生産量・消費量ともに非常に少ない国であることが分かります。南北に長い日本では、北海道ではてん菜、鹿児島や沖縄ではさとうきびと、2大原料作物の両方が栽培されていることが特徴的です。北海道のてん菜は寒さに強い作物として、沖縄のさとうきびは台風にも干ばつにも耐えられる作物として、各地域の農業に欠かせない存在。製糖業とともに地域産業を支えています。

現在、国・地域別の生産量ランキング1位はブラジル。過去のプランテーション開発を背景に、今も圧倒的な生産量を誇ります。生産量2位は、砂糖の生まれた国でもあるインドです。インドは世界で最も砂糖を消費している国でもあり、生産量と消費量がほぼ同じくらいです。さらに、生産量3位・消費量2位にEU、生産量4位にタイ、生産量5位に中国と続きます。世界の砂糖事情を見てみると、生産量と消費量の上位国はほぼ同じであり、一部の国に集中していることが分かります。

生産量1位はブラジル
生産・消費とも多いインド

砂糖の語源は、「Sarkara」サルカラ。古代インドのサンスクリット語で、さとうきびという意味です。この語源が示すように、砂糖は今から約2400年前の古代インドで誕生したと考えられています。その後、インドから中国やエジプト、ヨーロッパへと広がっていきました。中国を経て日本に伝えられたのは8世紀、奈良時代であるといわれます。15世紀に入ると、コロンブスがアメリカ大陸に砂糖を伝え、16世紀にはヨーロッパ諸国により南米やアフリカで大規模な砂糖プランテーションが展開されていきました。